

研究開発学校指定(R4～R7)

新設教科「かがやく時間」による 「より高度な言語能力」の育成

国立大学法人 奈良国立大学機構
奈良女子大学附属小学校

研究開発課題

様々な社会的変化を乗り越え、豊かな人生を切り拓く
子どもを育成するため、
自らの生活を語る新教科「かがやく時間」を新設し、
力強く自分の考えを伝えようとできる 言語能力 を育
成する教育課程と指導法を研究開発する。

「かがやく時間」とは(学習の基本構造)

基本形(反復)

- ・一人ひとりが学級全体に向けて「生活の中での気づき」や「自由研究」などについて発表し、「おたずね」に答え続ける
- ・聞き手は、発表者の文脈に关心をもち問い合わせ返し、理解を深める
- ・これを学級の人数分、繰り返す

ポイント

- ・教科書の文脈ではなく、子どもの生活・学びの文脈である

8月4日(さんさんから7日目)
たまごの中に目がみえた。
大きさは1mmでかわらない。

8月13日(さんさんから16日目)
たまごがふかした
体長3mmくらい
体の色はすくている

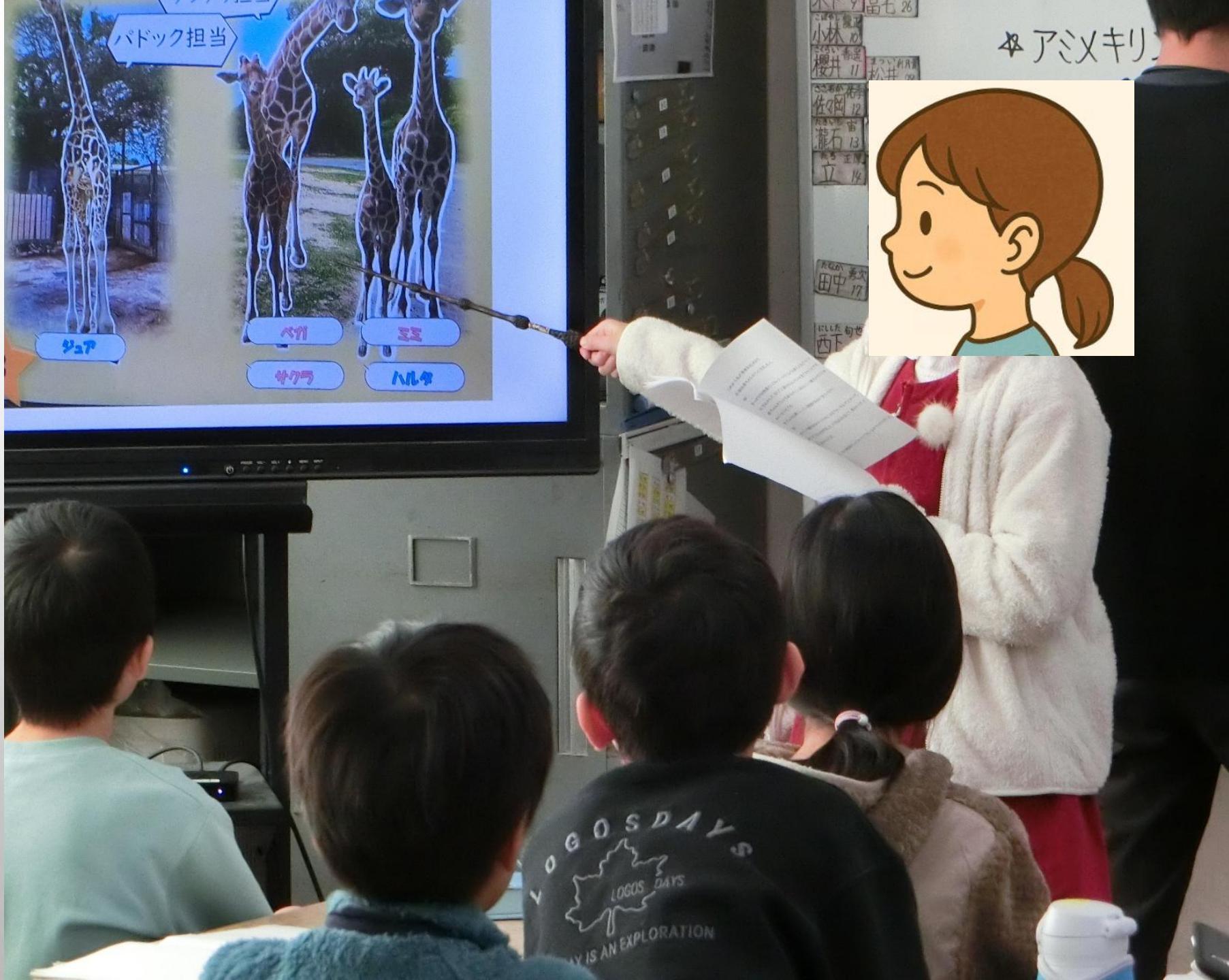
8月24日(さんさんから27日、ふかて11日目)
体長9mmくらい
体はうすピンクの色になってきた。
そつきがみえてきた。
まっ黒だった目が青くなってきた。
ふかしたばかりはおひれが
なかつたけどみえてきた。

ぼくのかんさつでは1回に15~25こくらい直
うんでいた。
= 1匹が毎日のようにたまごをうんでいた。
= 25匹の水おんの時は10日くらいでふか
する。水おん20匹で15日くらいかかる。
= ぼくのかんさつではふかまでに16日
かかった。水おんは20匹で16日かかる。
= たまごがふかする
だつた。
= 日かげにおいていて
がかかったかもしない。
= 1.5cmくらいまで
いふかげにしていて
= 2ヵ月で2cmぐ
メダカを100匹



国語	算数	体操	自由研究
ほうか後	12月6日	父の日	





教科としての特徴

「かがやく時間」は、次の特徴をもつ教科として整理

- ・学びに向かう力・人間性等を涵養する教科
- ・自身の成長の方向が自覚でき、成長への期待感を高められる教科
- ・誰一人取り残さない(多様な子どもに開かれた学習)教科
- ・実践的に生きて働く高度な言語能力を育む教科

研究仮説

仮説

- ・仮説1:学びの文脈を伝えるパフォーマンス課題の反復が有効
- ・仮説2:個の文脈重視の反復で学びに向かう力・人間性等が涵養される
- ・仮説3:学習観の転換で言語能力育成の指導法が究明できる
- ・仮説4:教科横断を通して国語時数約40%削減等が可能

教育課程の特例(時数)

国語の時数を削減し「かがやく時間」を新設

- 1～4年：国語 週3時間削減 →「かがやく時間」週2時間
- 5・6年：国語 週2時間削減 →「かがやく時間」週1時間
- 1～6年：総授業時数を週1時間削減

令和7年度 教育課程表

	各教科の授業時数													新設教科	総授業時数	
	国語	社会	算数	理科	生活科	音楽	図画工作	家庭	体育	外国語	特別の教科である道徳	総合的な学習の時間	特別活動			
第1学年	204 (-102)	—	136	—	102	68	68	—	102	—	34	—	—	34	68	816 (-34)
第2学年	210 (-105)	—	175	—	105	70	70	—	105	—	35	—	—	35	70	875 (-35)
第3学年	140 (-105)	70	175	90	—	60	60	—	105	—	35	35	70	35	70	945 (-35)
第4学年	140 (-105)	90	175	105	—	60	60	—	105	—	35	35	70	35	70	980 (-35)
第5学年	105 (-70)	100	175	105	—	50	50	60	90	70	35	—	70	35	35	980 (-35)
第6学年	105 (-70)	105	175	105	—	50	50	55	90	70	35	—	70	35	35	980 (-35)
計	904 (-557)	365	1011	405	207	358	358	115	597	140	209	70	280	209	348 (+348)	5576 (-209)

年間指導計画

年間計画作成について

- ・1年目…各学年から提案
- ・2年目…6学年分に整理
- ・3年目…低・中・高に整理、実践
- ・4年間を通して「低・中・高」学年の年間計画に整理し直した

年間指導計画

- ・「活動」については、1年間を3期間に分けてテーマを設定
- ・ 4月—7月
新しい学年、学級になって、周りの友だちに自分のことを伝える
周りの友だちのことを知るということをテーマにした活動
- ・ 9月—12月
自由研究を発表 1人ずつ学級全員を対象に発表する
各自20分程度の発表する時間を持てるように
おたずね(質問)や感想を述べる時間も含まれる
- ・ 1月—3月
低学年:友だちに知らせたいことを伝える活動
中・高学年:友だちに対して問い合わせたいことや友だちに聞いてほしい自分の主張を伝える活動

年間指導計画

- 最も重要視する目標 「友だちの良さを見つける、自分の良さを見つけ、発揮する」
⇒「低・中・高」学年の発達段階に合わせて、最上部に二重丸で示す

話し手(発表者)側の目標

「学習や生活の中から話題を決め、聞き手に伝わるように話すこと」

「興味のあることや熱中していることから研究内容を決めること、また、研究したことを聞き手に伝わるように話すこと」の2点

聞き手側の目標

「話す人(発表者)の良さを見つけること」

「聞いたいことを見つけて『おたずね』をすること」の2点

「かがやく時間」年間計画と目標及び内容の系統表（低学年）

	4～7月	9～12月	1～3月
目標	◎友だちの良さや自分の良さを見つける。 ○学習や生活の中から話題を決め、聞いている人に伝わるように話す。 ○興味のあることや熱中していることなどから研究したいことを決め、研究して分かったことや考えたことを聞いている人に伝わるように話す。 ○話す人（発表者）の良さを見つける。 ○聞きたいことを見つけて「おたずね」する。		
（時数）活動	「わたしのつたえたいこと」 ・じこしょうかい ・すきなもの ・みんなに知ってほしいこと等。 (1年:20時間／2年:22時間)	「じゅうけんきゅう はっぴょう」 (1年／2年:26時間)	「わたしのつたえたいこと」 ・さいきんのできごと ・しょうがっこうで できるようになったこと ・自分がきょうみをもって しらべていること 等。 (1年／2年:22時間)
内容	話すこと	<ul style="list-style-type: none"> 自分のことで知ってほしいことを見つけ、選んで話すこと。 自分らしい明瞭な声で伝わるように話すこと。 速さや間の取り方を考えながら話すこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 伝えたいことを実物で示したり、写真を使ったりしながら話すこと。 大切なところはくわしく話すこと。 速さや間の取り方を考えながら話すこと。 自分の発表の良さを感じ取りながら話すこと。
	聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> 相手を見て聞くこと。 内容を落とさないように聞くこと。 「おたずね」したいことを考えながら聞くこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 模造紙やスライドなどに書かれた資料を見て聞くこと。 必要に応じてキーワードをメモしながら聞くこと。 「おたずね」したいことを考えながら聞くこと。
	（聞き合うこと）話すこと	<ul style="list-style-type: none"> 聞きたいことを見つけて「おたずね」をすること。 「おたずね」されたことに対して自分の知っていることや気づいたことを基に答えること。 友だちの発表の面白さや良さに気づくこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 聞きたいことを見つけて「おたずね」をすること。 「おたずね」されたことに対して自分の知っていることや気づいたことを基に答えること。 発表者の工夫や発表の仕方の良さに気づき、感想を伝えること。
	資料づくり	<ul style="list-style-type: none"> 自分の好きなことやものの写真や実物を見せること。 必要に応じて模造紙や画用紙、タブレットを使うこと。 	<ul style="list-style-type: none"> 見つけたことや考えたこと、気付いたことを模造紙などにまとめる。 見やすい大きさ（文字や絵、写真）で、資料を作成すること。

「かがやく時間」年間計画と目標及び内容の系統表（中学年）

目標	4～7月	9～12月	1～3月
	<p>◎友だちの良さを見つける。自分の良さを見つけて発揮する。..</p> <p>○学習や生活の中から話題を決め、その中心が聞き手に伝わるように話す。..</p> <p>○興味のあることや熱中していることなどから研究内容を決める。研究して分かったことや考えたことの中心が聞き手に伝わるように話す。..</p> <p>○話す人（発表者）の良さを見つける。..</p> <p>○話の中心を捉えて聞きたいことを見つけ「おたずね」する。..</p>		
（活動時間）	<p>「私の伝えたいこと」..</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロングー言.. ・私の夢中になっていること.. ・気になったことを伝えよう等.. <p>（3年／4年:22時間）..</p>	<p>「自由研究発表」..</p> <p>（3年／4年:26時間）..</p>	<p>「私の伝えたいこと」..</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ロングー言（問い合わせ型）.. ・みんなにおたずねしたいこと等.. <p>（3年／4年:22時間）..</p>
内容	話すこと	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活や身の回りの中から伝えたいことを見つけて話すこと。.. ・伝えたいことの中心を意識して話すこと。.. ・聞き手が内容をイメージできるように順序や資料などを工夫して話すこと。.. 	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を効果的に使って話すこと。.. ・伝えたいことの中心が聞き手に分かるように話すこと。.. ・自分の発表の良さを感じ取りながら話すこと。..
	聞くこと	<ul style="list-style-type: none"> ・「うなずく・拍手」等、反応しながら聞くこと。.. ・話し手の伝えたいことの中心を意識して聞くこと。.. ・わかった、わからない等を整理して、「おたずね」したいことを考えながら聞くこと。.. 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究の中心を捉えて「おたずね」したいことを考えながら聞くこと。.. ・着眼の良さや発表の工夫を考えて聞くこと。.. ・発表者の良さを見つけながら聞くこと。..
	話すこと（聞き合うこと）	<ul style="list-style-type: none"> ・話の中心を捉えて「おたずね」や「つけたし」をすること。.. ・自他の考えの共通点や相違点に着目しながら「おたずね」をしたり、それに答えたりすること。.. ・発表者の工夫や発表の仕方等の良さに気づくこと。.. 	<ul style="list-style-type: none"> ・研究の中心を捉えて「おたずね」すること。.. ・「おたずね」に対して理由や根拠を明らかにして答えること。.. ・発表者の工夫や発表の仕方の良さに気づき、感想を伝えること。..
	資料づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・伝えたいことを中心に、模造紙やスライドを作成すること。.. ・文字の大きさや量、色を意識して模造紙やスライドを作成すること。.. ・文章と箇条書きを使い分けて書くこと。.. 	<ul style="list-style-type: none"> ・伝えたいことの中心を意識して、画像の大きさを変えたり、模造紙やスライドのレイアウトを考えたりすること。.. ・表やグラフを使い分けること。.. ・考えたことや分かったことが伝わるように、資料を作成すること。..

「かがやく時間」年間計画と目標及び内容の系統表（高学年）

	4～7月	9～12月	1～3月
目標	○友だちの個性を認める。自分の個性を見つめ、發揮する。. ○学習や生活の中から話題や主張を決め、その中心が聞き手に伝わるように話す。. ○興味のあることや熱中していることなどから研究内容を決める。研究の成果を聞き手に伝わるように工夫して話す。. ○話す人（発表者）の良さを見つける。. ○内容の要点を捉えて聞きたいことを見つけ「おたずね」する。.		
（時数）活動	「私の伝えたいこと」。 ・気になったことを伝えよう。 ・自分の身の回りのこと。 ・最近の気になるニュース等。 (5年:11時間／6年:9時間)。	「自由研究発表」。 (5年:13時間／6年:17時間)。	「私の伝えたいこと」。 ・友だちにたずねてみよう。 ・12歳の主張等。 (5年:11時間／6年:9時間)。
内容	話すこと	・自分の生活や身の回りの中から話題を見つけて話すこと。 ・伝えたいことの中心を意識して、その面白さや魅力が伝わるよう話すこと。 ・相手の興味を喚起する構成を工夫して話すこと。（問いかける、反応を見る等）。	・資料や項目等に従って自分の言葉で話すこと。 ・必要に応じて要点をまとめたり、くわしく説明したりしながら話すこと。 ・自分の個性がどう学級で価値付けられているのかを感じ取りながら話すこと。。
	聞くこと	・未知の事柄については想像力を働かせて聞くこと。 ・話題や主張に対する話し手の背景を意識して聞くこと。 ・話の要点を捉えて「おたずね」したいことを考えながら聞くこと。。	・研究の中心を捉えて「おたずね」したいことを考えながら聞くこと。 ・必要に応じて、発表者のこれまでの発表と比べて聞くこと。 ・発表者の個性的な追究や発表の良さを捉えて聞くこと。。
	（聞き合うこと）	・話の中心を捉えて、話し手の考えについて、「おたずね」や「つけたし」をすること。 ・自他の考えの共通点や相違点に着目しながら「おたずね」をしたり、それに答えたりすること。 ・発表者の工夫や発表の仕方等の良さに気づくこと。。	・発表内容の要点を捉えて「おたずね」すること。 ・「おたずね」に対して、これまでの追究をもとに的確に答えること。 ・発表者の工夫や発表の仕方等の良さに気づき、その良さを価値づけた感想を伝えること。 ・普段気づかない友達の良さを見つけ、一人ひとりにそれぞれの良さがあることを認識すること。。
	資料づくり	・聞き手への効果を考えながら、具体物や写真、表やグラフを使い分けること。 ・伝わり方を意識して、文字や写真、グラフなどの表し方や大きさ、配置を考えること。。	・発表場面を想定して、自分らしさの現れる発表資料を作成すること。 ・効果的に伝えるために、テーマや見出し、キーワードなど、発表の構成を工夫すること。 ・結果、考察、感想を使い分けること。。

評価の考え方(評価マップ)

評価の基本方針

- ・課題ごとの到達度より、年間等の長期で子どもの変化を捉える
- ・成長は一律ではない(伸びる能力・時期が異なる)
- ・ルーブリックを念頭にしつつ、本校では子どもと共有する前提ではなく「評価マップ」として整備

4年次

- ・項目を絞り、主に学びに向かう力・人間性等を見取る形へ

評価マップ

観点	レベル1	レベル2	レベル3
自己肯定感・自己有用感の向上	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の好きなことや得意なことを、問いかけや支えを受けながら少しづつ発表しようとしている。 ・できるようになった点に気づき、自分の言葉で振り返ろうとしている。 ・認められた経験を基に、自分のペースで挑戦しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の好きなことや得意なことを、自分なりの言葉で表現しようとしている。 ・活動を通してできしたことや楽しかったことを実感し、前向きに取り組んでいる。 ・周囲からの肯定的な反応を受け止め、自信を持って活動に参加している。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の好きなことや経験を周囲に伝えようとし、そのやり取りを安心して楽しんでいる。 ・経験を共有したことで安心感や満足感を得て、その実感をもとに次の取り組みへの意欲が高まっている。 ・周囲の反応を受けて、次の発表に向けて表現の方法を工夫し始める。
コミュニケーション力・協働性の発達	<ul style="list-style-type: none"> ・短い表現でも自分の考えを伝えようしたり、相手の意図を確かめようしたりする。 ・恥ずかしさがあっても、うなずきや身振りなども用いて関わり続けようとしている。 ・分からない点を尋ね直しながら、やり取りに参加しようとする姿が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相手に伝わるように、声の大きさや話し方を意識して話そうとしている。 ・相手の話に関心を持ち、相づちを打ったり反応したりしながら聞いている。 ・自分の考えだけでなく、相手の意見も聞こうとする姿勢が見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・話したいことが効果的に伝わるように構成を工夫して話している。 ・相手の話を最後まで聞き、内容を自分の言葉で理解しようと努めている。 ・話の中心をとらえて、質問している。
社会性・多様性理解	<ul style="list-style-type: none"> ・自分と異なる方法や考え方を否定せず、理由を理解しようとする姿が見られる。 ・相手の話を遮らずに受け止めようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分と友だちの考えには違いがあることに気づき、その違いを受け入れようとしている。 ・自分のやり方に固執せず、友だちの意見や別の方にも耳を傾けている。 ・集団のルールやマナーを意識し、周囲と協力しようとしている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・友だちの考え方や感じ方の違いに気づき、その違いを理解しようとしている。 ・他の方法も試し、自分のやり方を状況に応じて柔軟に調整しようとしている。 ・場や相手に合わせて方法を選び替えるなど、違いをふまえてふるまおうとしている。

共同研究で確認された効果

奈良女子大学 竹橋洋毅准教授等との協力により、効果を検証
確認された効果（例）

- ・自己肯定感・自己有用感の向上
- ・コミュニケーション力・協働性の発達（共感・傾聴）
- ・主体性・探究心の醸成
- ・思考力・表現力・課題解決力の育成
- ・社会性・多様性理解
- ・学習全般への波及効果

児童への効果(自己肯定感等)

自己肯定感等に関するアンケート(6項目)を実施し、
こども家庭庁調査(R5: 日本・米・独・仏・デンマーク)との比較も試みた。

結果の要点

- ・本校児童は日本平均より高いだけでなく、諸外国と同程度または高い傾向
(自尊感情／長所／家庭満足度／主張性／挑戦心／自己有用感等)

自己肯定感等に関するアンケート(6項目)

- ①私は、自分自身に満足している(自尊感情)
- ②自分には長所があると感じている(長所)
- ③自分は、親から愛されていると思う(家庭への満足度)
- ④自分の考えをはっきり相手に伝えることができる(主張性)
- ⑤うまくいくかわからないことでも意欲的に取り組む(挑戦心)
- ⑥自分は役に立たないと強く感じる(自己有用感)

という6つの項目について、

◇そう思う ◇どちらかと言えばそう思う ◇どちらかと言えばそう思わない ◇そう思わない
の4段階での回答とした。

令和5年度の各国の調査結果および 令和5年度・6年・7年度の本校児童の意識調査結果

	日本	アメリカ	ドイツ	フランス	デンマーク	本校 R5	本校 R6	本校 R7
①自尊感情	57.4 %	73.2 %	73.9 %	75.6%	72.3%	75.6%	91%	81%
						3年間の平均	82.5%	
②長所	65.6 %	82.6 %	85.2 %	81.2%	73.1%	81.1%	83%	88%
						84%		
③家庭への満足度	80.8 %	79.8 %	82.9 %	80.3%	80.9%	94.7%	95%	95%
						95%		
④主張性	57.1 %	71.5 %	74.0 %	72.3%	70.7%	79.2%	85%	78%
						81%		
⑤挑戦心	56.4 %	76.2 %	76.2 %	80.0%	71.2%	82.1%	94%	83%
						86%		
⑥自己有用感	53.9 %	34.6 %	46.7 %	44.7%	46.3%	71.9%	79%	74%
						75%		

他校での波及報告(研究協力校等)

6つの公立小中での実践報告から見える効果

- ・学級の話題が生まれ、主体的学習の雰囲気が形成・波及

(宮津市立吉津小学校)

- ・学習態度の改善、意欲向上、トラブル減少

(大津市立比叡平小学校)

- ・自己開示と他者理解が進み、安心感のある学級づくりへ

(大津市立瀬田東小学校・生駒市立鹿ノ台小学校)

- ・中学校では非認知能力の高まりや、不登校傾向の減少報告も

(舞鶴市立若浦中学校・舞鶴市立城南中学校)

教師・保護者への効果

教師への効果

- ・年間計画と評価マップにより、指導の見通しが明確化
- ・児童理解が深まり、価値づけ・即興的指導力が磨かれる

保護者への効果

- ・参観を通して子どもの学びと成長を共有し、学校への関心が高まる
- ・「親の参観が最大の共感・安心になる」「家庭で次につながる対話が生まれる」等の記述

カリキュラムオーバーロード対応

研究開始時:教科横断を通して言語能力に寄与し、国語時数約40%削減等を想定(仮説4)

現時点の整理

- ・「話す・聞く」は「かがやく時間」での育成が効果的という実感
- ・しかし、それだけで40%削減の確証を得るのは難しい
- ・自由発表起点の教科横断は、毎年の計画化が難しく、他教科削減に直結しにくい
- ・一方で、各教科の思考力・判断力・表現力等を下支えする効果は大きい

実施上の問題点と今後の課題(2点)

課題1:指導法の明確化

- ・技能を手順化して教えるより、子どもの工夫に内在する「よさ」を見逃さず
価値づけて伸ばす指導を、他校にも伝わる形でモデル化する必要

課題2:教科横断の位置づけ

- ・「削減」目的の教科横断としては計画化が難しい
- ・ただし、学びの質を支える基盤としての効果を、別軸で検証・提示していく

まとめ

- ・「かがやく時間」は、子どもの文脈に根ざした反復的な言語活動を核に、学びに向かう力・人間性等と実践的言語能力を涵養しうる教科として整理できた
- ・年間計画・評価マップを整備し、実施の見通しと成果の捉えを前進させた
- ・今後は「価値づけの指導法」の提示と、教科横断の効果の示し方を精緻化する

まとめ

そして何より、公立小中学校6校から報告された実践の成果は、本校児童の成果と同様のものであった。

- ・主体的学習の雰囲気が形成・波及
- ・学習態度の改善、意欲向上、トラブル減少
- ・自己開示と他者理解が進み、安心感のある学級づくり
- ・中学校では非認知能力の高まりや、不登校傾向の減少報告も

まとめ

この「かがやく時間」の実践は、公立学校はもちろん、どの学校でも成果が出る取り組みであることが確認できたことが大きい。

発達支持的生徒指導の観点から見ても、非常に有用な学習活動である。

ぜひ、多くの学校で実践していただきたい。